

<参 考>

様式1, 各部門共通

「食材王国みやぎ」推進優良活動表彰応募・推薦書

1 応募部門 ※応募するいずれかの1つの部門に○をつけてください。

地産地消	ブランド化
------	-------

2 活動主体者（自薦者及び被推薦者）の概要

(ふりがな) 活動主体の名称	(ゆうげんがいしやふぁーむ・それいゆとうほく) 有限会社ファーム・ソレイユ東北		
(ふりがな) 代表者の役職・氏名	(だいひょうとりしまりやく ひの まさはる) 代表取締役 日野 雅晴		
(ふりがな) 所在地	〒986-0828 (みやぎけんいしのまきしあさひちょう) 宮城県石巻市旭町10-8		
連絡先	非公開情報		
活動主体の組織概要	・食品全般及び飲料の卸・小売り ・自社工場新設による商用北限の「桃生茶」を原料とした和紅茶等の製造		
確認事項	※活動内容が表彰の対象となった場合、表彰されるのはどちらか○を付けてください。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"><tr><td style="text-align: center;">活動主体組織</td><td style="text-align: center;">活動主体の代表者（個人）</td></tr></table>	活動主体組織	活動主体の代表者（個人）
活動主体組織	活動主体の代表者（個人）		

3 推薦者の概要 ※自薦の場合は記載不要です。

(ふりがな) 組織名称	(みやぎけんとうぶちほうしんこうじむしょ) 宮城県東部地方振興事務所
(ふりがな) 代表者の役職・氏名	非公開情報
(ふりがな) 所在地	
連絡先	

＜参 考＞

様式 2, 地産地消部門用

＜地産地消部門活動について＞

1 活動の概要	<p>※取り組んでいる内容を要約してください</p> <p>東日本大震災後、2014年4月から店舗営業を再開し、「地元産品で地元を元気にしたい」との思いから、石巻産茶葉を活用した商品開発に取り組み、2017年より石巻産和紅茶「kitaha」の販売を開始し、2022年7月には、石巻市桃生町に自社工場を建設した。</p> <p>現在は、1軒のみとなっている石巻市桃生町の茶葉生産者と協力しながら、茶畑の管理も行っている。また、次世代に東北のお茶文化を繋げていくべく、市内の複数の高校へ赴き、地産地消等に関する講話やお茶の淹れ方なども教えている。</p> <p>開発した石巻和紅茶を通じ、県内の食産業振興の一助となっている。</p>	
2 活動のタイトル	<p>※取り組んでいる活動に「タイトル」を付けてください。</p> <p>『お茶を通して笑顔の輪を広げ、東北のお茶文化を次代へ繋げる』</p>	
3 活動の継続期間	<p>※取組や組織の発展過程などを時系列で記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1972年 先代が「お茶のあさひ園」として、お茶の小売業を開始。 ・ 2003年 2代目（現社長）が事業承継後、（有）ファーム・ソレイユ東北を設立し、食品全般及び飲料の卸・小売業を開始。「お茶のあさひ園」は、お茶及び関連商品の小売り部門という位置づけとなる。 ・ 2011年 東日本大震災により、店舗が全壊。 ・ 2014年 事業の立て直し再建後、和紅茶の開発を開始。 ・ 2017年 （公財）仙台市産業振興事業団の支援を受け、看板商品となる和紅茶 kitaha を発売。その後、「kitaha＝桃生茶の新ブランド」として再定義し、ラインナップを拡大。煎茶、フレーバーティー、菓子類などを加える。 ・ 2019年 kitaha ブランドの和紅茶が、G20 大阪サミット首脳夕食会のメニューとして採用される。 ・ 2019年 （公財）仙台市産業振興事業団主催の「第6回新東北みやげコンテスト」において最優秀賞を受賞。 ・ 2022年 地産地消をより確固たるものにするため、石巻で和紅茶及びほうじ和紅茶並びに烏龍茶を製造すべく、国の事業再構築補助金を受け、石巻市桃生町に自社工場を建設し、完全な「メイドイン石巻」として、始めに和紅茶の製造を開始する。（烏龍茶については、現在、県の喜ばれる商品づくり補助金を活用し、商品化に取り組んでいる。） 	
4 活動の取組形態	<p>中心として取り組んでいる取組形態 (複数選択可)</p>	<p>関連する取組形態 (複数選択可)</p>
※別表1から該当する取組形		

＜参 考＞

<p>態を選択してください。</p>	<p>イ・エ・オ・キ・ク・ケ・コ・サ・シ・ タ</p>	<p>ス・セ・ソ</p>
<p>5 活動等の詳細</p>	<p>(1) 活動を始めた契機</p> <p><u>※動機・目的等を記載してください。</u></p> <p>東日本大震災後、地域住民をはじめ多くの方々から励ましの声や協力を得ながら、再建することができた。</p> <p>再建するならば、「次の世代に繋げられるもので、地域の為になることをしたい。」との思いから、石巻産である桃生茶を原料とした、東北初の和紅茶の開発・製造を決意した。ゼロからのスタートだったが、現代の和紅茶の第一人者である静岡県の村松二六（むらまつにろく）氏と出逢い、開発を進めてきた。</p> <p>(2) 活動の理念</p> <p><u>※メインテーマ、目標など、タイトルの説明等を記載してください。</u></p> <p>『お茶を通して笑顔の輪を広げ、東北のお茶文化を次代に繋げる』</p> <p>石巻産の和紅茶「kitaha」を通して、それに関わるすべての人が笑顔になることを理念として活動している。また、石巻市桃生町には、伊達政宗公が食産振興のために奨励した、由緒あるお茶「桃生茶」がある。それを原料とすることで、「桃生茶」そのものも次代に繋げたいという思いから、和紅茶「kitaha」を開発した。</p> <p>昔から東北各地にも茶畑があり、お茶文化は続いているが、地産地消だけではなく、こうした文化を絶やすことなく、次代へ繋げる取組にも力を入れている。</p> <p>(3) 活動の内容</p> <p><u>※具体的な活動の内容、方法等を記載してください。</u></p> <p><u>※必要に応じて活動内容に関する資料（写真、記事、チラシ等）を添付ください。</u></p> <p>これまで煎茶としてのみ加工・販売されてきた「商用北限の桃生茶」を使い、2014年より和紅茶開発に着手した。現代の和紅茶開発の草分け的存在で、かつ、第一人者である村松二六氏に師事し製造技術を学び、2017年6月に「kitaha」としてリリースする。その後、「kitaha」を桃生茶の新ブランドとして再定義し、現在では、和紅茶のほか、フレーバーティー、煎茶、菓子などもラインナップに加わり、2022年5月には、新たに開発したほうじ和紅茶の販売を開始した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	

<参 考>

2019年に行われたG20大阪サミット首脳夕食会メニューへの採用、同年の第6回新東北みやげコンテスト最優秀賞受賞により、少しずつ販路は広がってきている。今後は、首都圏の百貨店や紅茶専門店を突破口として、全国へ販路を拡大していく。(G20大阪サミット首脳夕食会における飲み物については、世界的なソムリエである田崎真也氏が監修したが、地産地消に向けた地道な活動の結果、「kitaha」ブランドの和紅茶が同氏の目に留まり、メニューとして採択されることとなった。なお、(有)ファーム・ソレイユ東北には、このことが事前に知らされておらず、後日来店されたお客さんから聞き、初めて知ることとなる。)

写真 (活動の様子)

※肖像権保護のため写真は掲載していません。

写真 (活動の様子)

※肖像権保護のため写真は掲載していません。

フレーバーティーシリーズ「纏 (まとい)」では、県内のハーブ園及び苺農園との農商工連携や、菓子製造における障害者就労支援事業との農福連携を実践している。また、新設工場において、小規模茶園とOEM商品製造を通じた連携を図るなど、kitaha 拡販により、地域内の様々な分野の産業にさらなる経済効果を生み出している。



(4) 活動の成果

※取組の進展の中で生じた、農林漁業者への意識や農林水産業の変化、活動に対する支持、信頼性、広がりや人材育成に対する成果などを記載してください。

2020年12月からはECサイトをオープンし、県外の方々を含むリピーターも徐々に獲得している。

製造を開始した当初は、紅茶シーズンの茶摘みの手伝いをするだけだったが、近年は、生産農家の方から年間を通した茶畑の管理ノウハウを承継してもらうことで、新たな担い手としての役割も果たしている。

<参 考>

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため写真は掲載していません。

2022年7月に東北初の発酵茶専用工場「kitahanone（キタハノネ）」を新設したことにより、原料生産から製品化までのすべてを石巻市内で行うことが可能となった。この完全な石巻産の和紅茶の製造により生産量が増加したほか、品質も向上するなど、より安全・安心な商品づくりが実現されている。また、販売先のバイヤーや行政の関係者などが参加する工場見学会を実施することで、地産地消への取組をはじめとする様々な情報を発信し、地域の新たな魅力として認知されている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため写真は掲載していません。



東部地方振興事務所が実施する事業を通じ、石巻好文館高校及び石巻北高校において、地産地消への取組や想いのほか、石巻産の和紅茶「kitaha」を通じた次世代への継承に関する講話を行い、高校生へ地元で働くことの意義や、地元の知られざる魅力などを伝えている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため写真は掲載していません。

(5) 今後の活動の見込み

※これからの取組の目標、将来への抱負などを記載してください。

「kitaha」を全国へ展開させ、日本中の方々に東北でも優良産地に負けない美味しいお茶を栽培していることを伝え、東北地方全体の茶畑の活性化によるお茶文化の発展に繋がる取組を進めていく。

＜参 考＞

	<p>新設工場における小規模茶園との OEM 商品製造を通じた連携をより一層推進し、これまで kitaha の拡販により生み出した地域内の様々な分野の産業における経済効果を増加させていく。</p> <p>東部地方振興事務所や教育機関等との連携により、地産地消や地域の特産品に関する教育を行うとともに、石巻産桃生茶の存続（次代への継承）の一助となるよう、石巻から世界へ発信していく。</p> <p>これらの取組により、人々の笑顔の輪を広げていくとともに、「地ビール」ならぬ「地紅茶」が、地域の文化として継承されるよう努めていく。</p>	
<p>6 活動のPR ポイント</p>	<p>※上記活動等の詳細欄に記載した内容のうち、特にPRしたい点を箇条書きにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G20 大阪サミット首脳夕食会メニューへの採用 ・ 新東北みやげコンテスト最優秀賞受賞 ・ 東北初の発酵茶専用工場建設 ・ 生産農家との連携（茶畑の管理ノウハウ継承等） ・ 地元の学生を対象とした地域の魅力や地産地消を伝える講話の実施 ・ 県内での定期的な試飲会の実施 ・ 県内事業者との農商工連携及び農福連携 	
<p>7 連携している 団体等</p>	<p>※活動主体と連携して取り組んでいる団体等について記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 桃生茶鹿島茶園 ・ (株) ざおうハーブ ・ 山元いちご農園 (株) ・ パーラー山と田んぼ ・ 七十七銀行石巻支店兼穀町支店 ・ 丸子紅茶 ・ (有) 福島商店 ・ (公財) 仙台市産業振興事業団 ・ 宮城県東部地方振興事務所 	
<p>8 特記事項</p>	<p>(1) 受賞歴等</p>	<p>※当該活動に受賞歴等がある場合には記載してください。</p> <p>2017年 第4回新東北みやげコンテスト 入賞 2018年 第5回新東北みやげコンテスト 入賞 2019年 第6回新東北みやげコンテスト 最優秀賞</p>
	<p>(2) メディア 紹介</p>	<p>※各種メディアで紹介された実績を記載してください。</p> <p>【テレビ】</p> <p>2019年 9月 仙台放送「ともに」(G20 大阪サミット首脳夕食会メニュー採用についての紹介) 2020年 12月 NHK 放送「あの日 わたしは」(G20 大阪サミット首脳夕食会メニュー採用及び震災後の取り組みについて紹介)《全国放送》 2021年 7月 仙台放送「ともに」(石巻市桃生町へ新たに建設した、東北初の発酵茶工場についての紹介)</p> <p>※その他、ミヤギテレビ「OH!バンドス」、KHB「チャー</p>

＜参 考＞

別表 地産地消部門

1 過去5年間の活動実績

※実績を示す数値が複数ある場合は、それぞれの実績を記載してください。

(kitaha－紅茶)

	主な農林水産物の種類	取扱量	取扱額（千円）	施設の場合の利用人口 （入込数，給食者数等）
2017年度	kitaha－紅茶	17kg	非公開情報	
2018年度	kitaha－紅茶	20kg		
2019年度	kitaha－紅茶	220kg		
2020年度	kitaha－紅茶	160kg		
2021年度	kitaha－紅茶	161kg		

(kitaha－煎茶)

	主な農林水産物の種類	取扱量	取扱額（千円）	施設の場合の利用人口 （入込数，給食者数等）
2017年度	kitaha－煎茶	25kg	非公開情報	
2018年度	kitaha－煎茶	32kg		
2019年度	kitaha－煎茶	91kg		
2020年度	kitaha－煎茶	62kg		
2021年度	kitaha－煎茶	55kg		

2 全体の合計額（kitaha シリーズのみ）

	取扱額（千円）
2017年度	非公開情報
2018年度	
2019年度	
2020年度	
2021年度	